

20. 第二世代 HCV 関連抗体検査キット (HCV・EIA II 「アボット」) の使用経験

岩田 成真 高木 等 奥村 恭己
 樋口ちづ子 金森 勇雄
 (大垣市民病院・放技)
 中野 哲 武田 功 熊田 卓
 杉山 恵一 桐山 勢生 (同・消化器)

HCV 関連抗体検査は、c100-3 リコンビナント抗原を用いた「オーソ HCV Ab IRMA テスト」が汎用されていた。最近、c100-3 抗原に加え、コア領域の抗原、NS3、NS4 領域の抗原も用いた「HCV・EIA II 『アボット』」が開発されたので、従来キットとの比較検討をレポートした。

【結果】基礎的検討で本法は従来キットに比し、同時・日差再現性はほぼ同等であったが、希釈試験は僅かに劣る傾向にあった。一方、非 A 非 B 型慢性疾患 118 例の検討で、本法は 80%、従来法は 50% の陽性率を示した。本法は従来法に比し感度的に一段と優れており、臨床面に活用され得るものとする。

21. ^{99m}Tc -MAG3 による腎シンチグラム

高野 勝弘 小林 茂樹 竹田 寛
 中村 和義 紀ノ定保臣 中川 毅
 (三重大・放)
 北野外紀雄 (同・中放)

^{99m}Tc -MAG3 による腎シンチグラムの第二相臨床試験を行い、その有効性、投与量、安全性について評価した。

正常機能腎 14 個のレノグラムでは、 $T_{\max}=2.87\pm 0.36$ (min), $T_{1/2}=3.93\pm 0.76$ (min) であった。

^{99m}Tc -MAG3 は投与量 300 MBq 以上で血管相、機能相、排泄相ともに鮮明なイメージがえられた。副作用出現例はなく、安全性がきわめて高かった。MAG3 は、 ^{99m}Tc でラベルすることができ、今後の臨床における有用性が期待される。

22. In vivo 核医学に関する放射性核種投与量の実態調査：医療放射線被曝の合理的低減に関する研究 (第一報)

中村 元俊 (藤田学園保健大・医・放)
 近藤 武 安野 泰史 立木 秀一
 江尻 和隆 竹内 昭 (同・衛・診放技)
 横山貴美枝 西村 哲浩 (同・放部)
 竹下 元 古賀 佑彦 (同・医・放)

東海 4 県下 104 施設に in vivo 核種投与量を主としたアンケート調査を行った。回収率は 81.7% で検査総数は年間 119,614 件、検査施行頻度は、① 骨シンチ 26.4%、② Tl 心筋シンチ 15.5%、③ Ga シンチ 13.3%、④ ^{123}I -IMP 脳血流シンチ 7% の順であった。核種が 87 年勧告値より多く投与されている施設の割合は、骨シンチ：21.3%、Ga シンチ：11.1%、Tl 心筋シンチ：7.4%、IMP 脳血流シンチ：0%。骨シンチでは医師数もしくは技師数が増えるにつれ投与量は勧告値に近似する傾向を認めた。Tl 心筋シンチの投与量は planar より SPECT 撮像で有意に多かった。Ga シンチではカメラ台数が 2 台以下の 9 施設 (12.6%) で 87 年勧告値を超えていたが、3 台以上の全 10 施設で勧告値以下の投与量であった。